

スコアシート		実施設計段階				
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質						3.5
Q1 室内環境			0.40	-	-	3.2
1 音環境		2.4	0.15	2.0	1.00	2.4
1.1 騒音		3.0	0.40	3.0	0.40	
1.2 遮音		1.6	0.40	1.7	0.40	
1 開口部遮音性能		1.0	0.38	1.0	0.30	
2 界壁遮音性能		2.0	0.55	2.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		1.0	0.03	1.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)	学)グループ学習でLr値=55	4.0	0.03	3.0	0.20	
1.3 吸音		3.0	0.20	1.0	0.20	
2 温熱環境		3.2	0.35	3.0	1.00	3.2
2.1 室温制御		3.5	0.50	3.0	0.50	
1 室温		2.0	0.40	3.0	0.57	
2 外皮性能	屋根・外壁に断熱材(ウレタン吹付等)、複層ガラスを採用	4.0	0.27	3.0	0.43	
3 ゾーン別制御性	マルチユニット型ヒートポンプ方式(冷暖同時)を採用	5.0	0.33		-	
2.2 湿度制御		3.0	0.20	3.0	0.20	
2.3 空調方式		3.0	0.30	3.0	0.30	
3 光・視環境		2.9	0.25	3.0	1.00	2.9
3.1 昼光利用		2.4	0.30	4.2	0.30	
1 昼光率	専)4床室で1.31%確保	2.0	0.60	5.0	0.60	
2 方位別開口			-		-	
3 昼光利用設備		3.0	0.40	3.0	0.40	
3.2 グレア対策		3.0	0.30	3.0	0.30	
1 昼光制御		3.0	1.00	3.0	1.00	
3.3 照度	2階 総合診療科:500ルクス	4.0	0.15	1.0	0.15	
3.4 照明制御		3.0	0.25	3.0	0.25	
4 空気質環境		3.9	0.25	3.6	1.00	3.8
4.1 発生源対策		4.0	0.50	4.0	0.63	
1 化学汚染物質	F☆☆☆☆建材を全面的に使用	4.0	1.00	4.0	1.00	
4.2 換気		3.0	0.30	3.0	0.38	
1 換気量		3.0	0.47	3.0	0.33	
2 自然換気性能		3.0	0.06	3.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.47	3.0	0.33	
4.3 運用管理		5.0	0.20		-	
1 CO ₂ の監視		-	-		-	
2 喫煙の制御	全館禁煙	5.0	1.00		-	
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-	3.8
1 機能性		3.6	0.40	5.0	1.00	3.6
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40	5.0	0.60	
1 広さ・収納性	専)4床室で10m ² /床以上、1床室で8m ² 以上確保		-	5.0	1.00	
2 高度情報通信設備対応			-		-	
3 バリアフリー計画		3.0	1.00		-	
1.2 心理性・快適性		4.6	0.30	5.0	0.40	
1 広さ感・景観	専)CH2700	1.0	0.08	5.0	0.50	
2 リフレッシュスペース			-		-	
3 内装計画	建物全体のコンセプトや機能が明確であり、事前に検証を行っている	5.0	0.92	5.0	0.50	
1.3 維持管理		3.5	0.30		-	
1 維持管理に配慮した設計	フッ素樹脂塗装や水切などを採用し維持管理に配慮	4.0	0.50		-	
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50		-	
2 耐用性・信頼性		3.8	0.30		-	3.8
2.1 耐震・免震		3.8	0.50		-	
1 耐震性	1.25倍の耐震性能	4.0	0.80		-	
2 免震・制振性能		3.0	0.20		-	
2.2 部品・部材の耐用年数		3.8	0.30		-	
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20		-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	押出成形セメント板 35年	5.0	0.20		-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10		-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10		-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	給水汚水雑排水管の主要用途3種についてB以上で、Eは不使用	5.0	0.20		-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20		-	

2.4 信頼性			4.0	0.20		-	
1	空調・換気設備	熱源種の二重化を行い、吊配管などを行っている	5.0	0.20		-	
2	給排水・衛生設備	グリーン購入法対応の衛生器具、排水系統の細分化	4.0	0.20		-	
3	電気設備		3.0	0.20		-	
4	機械・配管支持方法	耐震クラスA対応	4.0	0.20		-	
5	通信・情報設備	光・メタル・PHSと通信手段を多様化、通信精密機器を地上階に設置	4.0	0.20		-	
3 対応性・更新性			3.9	0.30	4.8	1.00	3.9
3.1 空間のゆとり			4.6	0.30	4.6	0.50	
1	階高のゆとり	平均階高3.94m 病室部分の階高4.05m	5.0	0.60	5.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ	共)壁長さ比率=0.12 専)壁長さ比率=0.15	4.0	0.40	4.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	5.0	0.50	
3.3 設備の更新性			4.2	0.40		-	
1	空調配管の更新性	点検口、EPS、PF管配線、二重床により仕上材を痛めずに更新・修繕	4.0	0.20		-	
2	給排水管の更新性	点検口、EPS、二重床により構造部材を痛めずに更新・修繕	4.0	0.20		-	
3	電気配線の更新性	点検口、EPS、PF管配線、二重床により仕上材を痛めずに更新・修繕	5.0	0.10		-	
4	通信配線の更新性	点検口、EPS、PF管配線、二重床により仕上材を痛めずに更新・修繕	5.0	0.10		-	
5	設備機器の更新性	屋上部に設備機器の予備が置けるスペースがある	4.0	0.20		-	
6	バックアップスペースの確保	屋上部に設備機器の予備が置けるスペースがある	4.0	0.20		-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	3.5
1 生物環境の保全と創出			3.0	0.30		-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮		三笠公園及び公園から続く歩道を視点場とした、セットバック低層ボリューム、屋上庭園、機器目隠	4.0	0.40		-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.5	0.30		-	3.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		ピロティ状の車寄せ、イベントスペース、敷地周囲の生垣	4.0	0.50		-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50		-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.3
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.5
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPI=0.72 建物の断熱を適切に配し外部からの熱負荷に配慮	5.0	0.20		-	5.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10		-	3.0
3 設備システムの高効率化		BEI 非住宅 - 住宅(専有部) -	3.0	0.50		-	3.0
集合住宅以外の評価(3a,3b)		BEI=0.99 高効率空調設備やLEDなどを中心に採用	3.0	1.00		-	
集合住宅の評価(3c)							
4 効率的運用			3.5	0.20		-	3.5
集合住宅以外の評価			3.5	1.00		-	
4.1	モニタリング	BEMSを導入	4.0	0.50		-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50		-	
集合住宅の評価							
4.1	モニタリング						
4.2	運用管理体制						
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.6
1 水資源保護			3.4	0.20		-	3.4
1.1 節水		節水型便器や水栓を積極的に採用	4.0	0.40		-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60		-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70		-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30		-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.8	0.60		-	3.8
2.1 材料使用量の削減			3.0	0.11		-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.22		-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.22		-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		再生加熱アスファルト(外構)、ビニル系床材(床):グリーン調達品目、エコアークア(外構):エコマーク	5.0	0.22		-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			-	-		-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		内装が乾式工法、PS・天井内配管により設備との錯綜を回避、二重床	5.0	0.22		-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20		-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30		-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70		-	
1	消火剤		2.0	0.33		-	
2	発泡剤(断熱材等)	発泡断熱材はノンフロン製品を採用	4.0	0.33		-	
3	冷媒		3.0	0.33		-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	2.8
1 地球温暖化への配慮		消費エネルギー量削減により運用時のLCCO2排出量低減に配慮	3.0	0.33		-	3.0
2 地域環境への配慮			2.4	0.33		-	2.4
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25		-	
2.2 温熱環境悪化の改善			2.0	0.50		-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.7	0.25		-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25		-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25		-	
3	交通負荷抑制		3.0	0.25		-	
4	廃棄物処理負荷抑制		2.0	0.25		-	
3 周辺環境への配慮			3.1	0.33		-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40		-	
1	騒音		3.0	1.00		-	
2	振動		-	-		-	
3	悪臭		-	-		-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40		-	
1	風害の抑制		3.0	0.70		-	
2	砂塵の抑制					-	
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30		-	
3.3 光害の抑制			3.7	0.20		-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害チェックリストを一部満たす、広告物照明がない	4.0	0.70		-	
2	星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30		-	